

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動遊びと療育支援こどもプラス大袋教室（児童発達支援・放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～	2026年12月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児発 6人/放デイ 7人	(回答者数)	児発 5人/放デイ 6人
○従業者評価実施期間	2025年12月25日		～	2026年1月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数)	4人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月13日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	充実を図るための取組等
1	楽しく身体を動かしながら、心と体の発達を促すことができる柳澤運動プログラムの実施をしている。	定期的に運動研修を実施しており、日々スキルアップできるよう意識している。 より楽しく身体を動かせるように、月や週ごとに目標や課題（跳躍力、支持力等）を決めて活動内容を考案している。	どの職員もより充実した運動遊びが実施できるよう、専門性向上に向けた研修機会を増やしていく。 また言語聴覚士による個別でのサポート提供もより拡充させていく。
2	最高のサポーターになるという理念に基づいて、お子さんや保護者の方1人1人に心を込めた対応をさせていただいている。	保護者の方とのコミュニケーションも大切にし、送迎時等に積極的に共有や報告等をしている。 また丁寧な対応ができるよう適切な人員配置をしている。 「ご利用者様とご家族様にとって最高のサポーターである」という理念をかかげ、常に共有している。	全職員がより心を込めた対応ができるよう、情報共有を徹底していく。
3	粗大運動だけではなく、微細運動として制作等の机上活動やイベントも積極的に取り入れている。	運動遊び後の集中力が向上する時間を活用し、落ち着いて机上活動等に取り組めるように工夫している。 また指先を使った制作や遊びを積極的に取り入れている。 自立支援や余暇の提供として、制作や外出等様々なイベントの機会をつくっている。	継続して取り組んでいく。

	今後の課題だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムや家族等も参加できるイベントや研修会、また情報提供の機会の充実。	家族参加のイベントは参加率が低くなってしまっている現状がある。 家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）は長期間の為、実施が難しい現状にある。	より多くの方が家族参加型のイベントに参加していただけるよう、日程や内容を再検討していくとともに実施した際は、こどもプラス通信等で報告をしていく。 家族支援に向けて担当者会議、ペアレントトレーニングの講習会の受講は進んでいるため、今後家族支援が実施できるよう計画を進めていく。
2	社会的な活動や外部でのイベントなど、多様な活動の提供。	地域へのイベントは日曜日開催が多く参加が難しいのが現状。 また詳細情報が直前に周知されることもあり、イベントとしての周知の難しさがある。	様々な経験の機会として、外へ出向くイベントは積極的に実施している為、引き続き継続していく。 社会交流としては、引き続き情報収集を強化し交流できる場を増やしていく。